



(一社) 山梨県造園建設業協会

2021
vol.34

豊かな緑で山梨の未来を創る!

ぞうえん山梨

LANDSCAPE YAMANASHI



県立農林高校との出前講座の取組み

CONTENTS

- | | | | |
|----------------------------|-----|-------------------|-----|
| ● 会長あいさつ | P02 | ● 農林高校出前講座 | P08 |
| ● 協会の動き | P02 | ● 青年部の活動報告 | P09 |
| ● 表彰 | P02 | ● 造園協同組合の事業 | P10 |
| ● オルビスの森 | P03 | ● 会員名簿 | P12 |
| ● 特別寄稿 コロナ禍と大災害時代の造園 | P04 | | |

表紙の解説

造園業の魅力や楽しさを高校生に理解してもらうため、樹木や石材を用いた実技講座を実施している様子

E-mail:info@zo-en.or.jp URL:https://zo-en.or.jp/



Facebookで「いいね!」してね
山梨県 造園協会 検索



LANDSCAPE
YAMANASHI

01

会長あいさつ



一般社団法人 山梨県造園建設業協会

会長 依田 忠

協会の活動について

日頃より(一社)山梨県造園建設業協会の活動に格別なご支援ご協力を賜り、感謝申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、各種活動の自粛や例年行われる県主催の行事等の中止など激変の年となりましたが、6月以降感染症対策に十分配慮して協会活動を再開したところであります。そうした中、急速な高齢化や若者離れが進む造園建設業において、中長期的な担い手の育成・確保を目指した人材育成に力を注ぐとともに、荒廃が進む森林を人々が集い自然と親しむことができる里山に整備する社会貢献事業に取り組んでいます。

人材育成事業として、山梨県が主催する「建設産業担い手確保・育成産学官連携会議」に参加するとともに、造園建設業のイメージアップを図るため協会ホームページの内容を拡充する取り組みのほか、県内の高校生を対象として造園技術の習得を図る出前講座を実施し、こうした活動を通して行政機関や高校等教育機関との連携を深めて参ります。また、社会貢献事業では、里山の整備を図る「きづかいの森」事業として、平成28年度から公益財団法人オイスカと協働して甲州市塩山上小田原地内で「オルビスの森」整備に参画し、造園技術を活かして支援や技術協力を行っています。

今後も造園建設業が地域に根ざした産業として立ち位置を確立するとともに、災害が発生した場合、山梨県との防災協定に基づき資機材を提供する等、災害復旧活動に協力して参ります。

また、「樹木という生き物を扱う建設業」に携わる者として、造園力(ゆるぎない技術力、洗練された文化力、豊かな想像力)の向上を図り、人と自然が共生する緑豊かで持続可能な社会の形成に貢献し、次世代に継承することを社会的使命と心得、環境緑化整備の推進などを通して山梨県の発展を支える活動を行って参ります。

LANDSCAPE
YAMANASHI

02

令和2年度 第8回定時社員総会

令和2年5月26日造園建設業会館において、第8回定時社員総会が開催されました。今回は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の政府要請を踏まえ、会員には議決権行使書による書面表決の協力をお願いし、会長、副会長の他、理事4名及び監事1名の出席のもと、総会が開催されました。4月27日付けで総会資料を会員に発送し、1社は委任状による代理出席、25社は議決権行使書による書面表決の提出をいただき、「2019年度収支決算」について承認及び「2019年度事業報告」「令和2年度事業計画・収支予算」について了承されました。なお、造園事業功労者表彰では、渡辺高征氏(明桃園)、荒井浩樹氏(山梨ガーデン)、土屋和明氏(サンリツ造園土木)、堀込勝利氏(富士グリーンテック)の4名が表彰されました。

LANDSCAPE
YAMANASHI

03

表彰

(一社)日本造園建設業協会
会長賞(業績表彰)(有)荻野造園
専務取締役
荻野 陽司氏

当協会理事である荻野陽司氏は、令和2年6月23日に開催された日本造園建設業協会総会において、氏の長年の業績が高く評価され、会長賞を受賞しました。

山梨県環境緑化功労賞

(株)富士グリーンテック
取締役
申松 洋一氏

当協会副会長である申松洋一氏は令和2年10月17日に恩賜林記念館で開催された第45回山梨県林業まつり森林・林業関係功労者表彰式において、環境緑化推進の功績が高く評価され、長崎幸太郎知事より表彰されました。

建設雇用改善優良事業所
建設産業団体連合会会長表彰富士急建設(株)
代表取締役社長
飯島 慶一氏

富士急建設(株)(代表取締役社長 飯島慶一氏)は、令和2年11月25日にアビオ甲府で開催された令和2年度「建設雇用改善推進・建設業労働災害防止大会」において、優良事業所として浅野建設産業団体連合会会長から表彰されました。

森林再生 里山づくりに活きる造園力～オルビスの森2020～



▲ 製作したデッキと活動参加者

－オルビスの森とは－

2011年、甲州市・オルビス(株)・(公財)オイスカの3者が甲州市里山創造推進協議会を設立し、「森林整備協定」を締結しました。2012年から甲州市上小田原地内の公益的機能を果たせなくなっていた市有林約100haの森の再生を目的に「甲州市・オルビスの森」の森林整備が開始されました。

当初は間伐をメインに活動を行っていましたが、2016年より造園協会も参画し、この森を広葉樹林として再整備

し、「荒廃した里山を森の再生だけでなく人々が集い自然と親しむ里山」として整備する計画を立てました。

－これまでの経緯－

2016年度は「サクラの森」エリアにヤマザクラ等の大苗100本を、2017年度は高芝川の対岸に同じくヤマザクラ等の大苗80本を植林しました。造園業者の行う植林の特色として、ある程度成長した苗を使用し、水極めという作業を行うことにより、枯れない植林を行っています。

2018年から4年計画で本格的な里山整備事業がスタートしました。この事業では「森を壊すような整備は行わない」「間伐によって発生した木材は必ず使用すること」を基本に考えています。遊歩道800mの整備では、山の景観を壊さないように必要と思われる樹木を残しながら整備しました。2019年度は高芝川沿いに転落防止用木柵102m・木柵手すり10m・ロープ柵35mを設置、園路を80m改修、階段を20m補修しました。

－2020年度－

本年度は、防腐剤を塗布したスギの間伐材を材料としたウッドデッキを二箇所を設置しました。

ひとつは、林内にある平らな棚田跡地に4m×5m、6m×17mサイズのデッキを繋げて製作し、コンサートや森林セラピーなどの多目的な利用が出来るような空間に仕上げました。

もうひとつは、遊歩道から続く標高の高い箇所に、植樹したサクラ・モミジが一望できるよう、4m×8mの展望デッキを設置しました。

製作には、山梨県立農林高等学校造園緑地科の生徒が、同校が取り組んでいる「日本版デュアルシステム」による現場実習の一環として参加しました。

10月31日(土)には、コロナ禍という状況の中で例年より少人数の開催となりましたが、ボランティア体験活動を行いました。オルビス社員4名、甲州市2名、オイスカ4名、森林協会1名、造園協会から指導員として2名が参加し、棚田跡地に設置したウッドデッキのフロアーに木材を固定する作業を行いました。木材にステンレスのビスを電動ドライバーで打ち込むという慣れない作業でしたので、初めはうまくいきませんでしたが、慣れてくるとお互いの役割分担が機能し、上手に最後の仕上げまで出来ました。

来年は「オルビスの森」森林整備事業が10周年を迎えるにあたり、集大成としての事業を計画しています。今までは、整備を中心に活動してきましたが、今後はいろいろな方に利用していただき、人が使える森へとさらに進化していくことを目指して、私たちもご協力をしていきたいと考えています。



▲ 農林高校現場実習



▲ ボランティア活動(デッキ作成)



蓑 茂 壽太郎

みのもと したろう

農学博士 RLA フェロー
東京農業大学名誉教授
(一財) 公園財団理事長
熊本市都市政策研究所長
日本造園学会名誉会員
日本都市計画学会名誉会員
全国都市緑化熊本フェア 2022 総括アドバイザー

進化しないと造園は継続できません。社会の変化に対応していかないと続きません。造園職能が7世紀以降途絶えることなく続いてきたのは社会の変化に連綿と対応できたからです。標題に掲げたコロナも大災害も一種の社会変化だと受け止めるべきことのように思います。コロナはsociety5.0の感染症であり、大災害は地殻変動や地球温暖化など地球の異変そのものが原因のようです。そのような思いから本誌二度目の寄稿依頼にお応えすることにしました。

感染症と造園

感染症と造園はどう関係するのでしょうか?お医者さんは病気になった人を治すのが仕事ですが、造園家は病気にならない環境を設えるのが仕事です。その思いから医学部進学から農学部進学に人生の進路を変更した人がいます。

「コロナ禍」の表現は、この一年間で瞬く間に広がりました。有り難くない流行語大賞になりかねません。禍はわざわざですから、新型コロナCOVID19が招いた危機的状況を指します。この先どのように展開するのでしょうか。過去をたどることで案外とこれからが見えてくるものです。ポスト・コロナなのかウイズ・コロナが続くのか。本稿が印刷されて皆さんの手元に届くころにはワクチンが開発されて元の生活に戻る兆しとなるかもしれません。感染症による世界的流行のパンデミックはこれまでに何度かありました。コレラのように19世紀初頭から始まって今も地球上の一部地域では続き第7次を数えるものまであります。パンデミックを招いた20世紀以降の感染症が2年ないしは3年で終息していることから、治療の方法が決まるなら、いずれアフター・コロナだとその後を期待する向きが多いようです。しかしコレラのように地球のどこかでは長期にわたり発病があることからするなら、時代だけの問題でなく地域によってはウイズ・コロナ社会を覚悟しなければならないでしょう。

—顕微鏡写真と「3つのミル」—

ところで「コロナ」とは何でしょう。新型コロナ感染症患者から単離したウイルス粒子の電子顕微鏡画像から、その形が幾つかのスパイク・角が飛び出した王冠(コロナ)のように見えることから名称だそうです。造園はランドスケープ・風景を「見て・観て・診る」、すなわち「3つのミル」を意識する仕事です。特別の場合を除き地上に立って眺めますが、地上でも高台から、あるいはドローンで空から俯瞰することもあります。造園家が顕微鏡で風景を見ることはほとんどありません。しかし私はデザイン思考において有機的な形態を探し出すために倍率の高い電子顕微鏡で撮影した写真を効果的に使った経験があります。

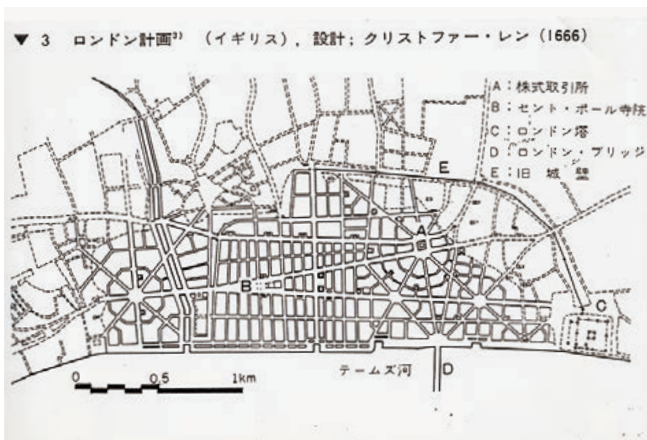
この度の世界同時流行の感染症・パンデミックは、グローバルに五大大陸を跨いで人が日常的に交流する社会になってのもので、地球規模での人類の危機です。かつては4年に一度のオリンピックだけがグローバルな交流でしたがこれが日常化しています。いくつか過去の感染症が発生した時期を確認してみましょう。

—近代都市計画と公園の誕生—

近代都市計画の先駆けはC.レン(1632-1723)のロンドン計画(1666)です。これは町の中心部を焼失させたロンドン大火後の復興計画です。この大火が皮肉にもロンドン市民を救ったと言われました。当時疫病が大流行で病原菌を運ぶ媒体のネズミが火事で一網打尽になったからです(写真1、2)。しばらく経って1850年頃、ロンドンで都市公園・パブリックパークが登場します。これも産業革命で誕生した都市で格差社会が生んだスラムで生活する下層階級の人々がベストで尊い生命を喪ったことに関係しています。新鮮な空気と輝く太陽の光を浴びる公園が特権階級は利用できていたロイヤルパークと同様に庶民にも必要とされたからで



▲写真1 ロンドン大火の様子 (出典：ロンドン大火、歴史都市の再建)
5日間燃え続けた大火で疫病の拡大媒体であったネズミも一網打尽



▲写真2 近代都市計画の先駆けとなるロンドンプラン
(出典：都市計画図集、技法堂出版)

現代の造園が主な仕事として正面から取り組んでいる公園は、どの時代の疫病とも想像力豊かにすることで混乱解決に関わって来ました。過去の経験と違うのは地球規模での日常的な交流社会であるSociety5.0時代の感染症ということです。物流だけでなく人流経済が大きな比重を占めるようになったグローバルな情報ネット社会でのパンデミックです。この中で私たちにできることを一つ一つ進めて行かなくてはなりません。一連の社会の混乱に「和みを与える技」をこの機会に生み出すことです。

ペスト・黒死病が蔓延したのは1347-1351の期間ですが、このペスト菌の発見に貢献したのは北里柴三郎(1853-1931)ですずっと後になってのことです。ロベルト・コッホ(1843-1910)はコレラ菌の発見者として知られていますが、コレラは一次1817-1824、二次1826-1837、三次1840-1860、四次1863-1879、五次1881-1896、六次1899-1923、そして先記したように現在も発病しています。撲滅は簡単でないと心得る必要があります。収束を待つのではなく、これを一つの変化だと捉え対応する術を開発することではないでしょうか。

大災害時代と造園

自然災害に翻弄されているのが昨今の日本列島であり日本社会です。造園は自然と人間のバランスを保つ思想に基づいています。すべての造園技術は、この思想を反映したものであるはずで。建築の多くや日常目にする土木との違いは時としてそこにみられます。しかし建築や土木にも自然とのバランスを保つ思想で発想され技術展開をしたものが確認できます。巧みな技術の実装化の姿です。したがって造園、建築、土木の共通点

す。日本でも聖武天皇(701-756)の時代に奈良東大寺に大仏様が造られましたが、これは天平9(737)年頃の天然痘による大混乱に関係あるようです。このようにSociety2.0の農業社会、工業化による産業革命のSociety3.0にも疫病で大変な混乱がありました。時代が下がってロシア風邪(1889-1892)やスペイン風邪(1918-1920)はほぼ100年前のことですが、この間の1896年に近代オリンピックの第1回大会がアテネで開催されています。スペイン風邪は約2年間続き第三波まで確認されています。今回と同じように「マスクとうがい」が推奨されました(写真3)。



▲写真3 スペイン風邪等の内務省ポスター
(出典：「日本を襲ったスペイン・インフルエンザ」表紙より)

を探し当てるのに苦労はしません。今、重要なのは造園が建築や土木との比較に立ち、その共通点と相違点をしっかり見定めることです。その時、重要な観点となるのが防減災です。私は人間と自然とのバランスを思想として具体の技術を開発していく限り、造園は未来永劫の職能として持続すると信じています。そこで大災害時代は裏を返せばチャンスなのです。地震災害だけではなく。地球温暖化が一因とされる線状降水帯の発生と長時間停滞による記録的豪雨によるがけ崩れや水害が各地で頻発しています。氾濫平野や谷底平野、急傾斜地の直下に住まう限り、自然災害は宿命です。しかしその復旧・復興の良否は人間の英知で左右されます。そして肝心なのは復旧・復興の前に再発防止を考えることです。

熊本地震(2016)と熊本緑化フェア2022

私は「時と地の定めから」熊本地震(2016)後の熊本城の復旧に関係することになりました。また球磨川水害(2020)で大被害を受けた人吉のことを考える機会も得ています。前者では展示型復旧を提案し現在は復旧工事を具に見学できるようになっています(写真4)。石垣や櫓の復旧工事は約20年を要します。この期間、「現在工事中ですから熊本城の見学はできません」ではまずいことから見学通路を仮設し修復工事を学べるようにしています。解説が付くことで見学はより深みを増します。熊本城は加藤清正による築城で「不落の城」で知られています。明治22年の大地震でも大きな被害がありました。当時は手仕事による復旧でしたが今後は機械化に移っています。物理的な支えとして動力を用いるのであって、そ



▲ 写真4 熊本地震後の熊本城復旧と仮設の見学通路
(出典：建設通信新聞 2020年5月20日号より)

こには自然と人間との間の精神的つながりが保たれなくてはなりません。広い意味ではバイオフィリア・生物愛の一端が見えてしかるべきです。

2022年3月末から5月中旬までの65日間の会期で、熊本開催2度目の都市緑化フェアがあります。前は昭和61(1986)年でしたので35年ぶりの開催です。当時メイン会場となったのが熊本市動植物公園の植物園区です。日本庭園ゾーンをはじめ全体が新

規植栽の造園工事で造られました。そして今は鬱蒼とした森になっています。市民が楽しむ庭や園になっていません。理想の風景を造り上げていくためには、樹木の剪定に止まらず、選伐・除伐が必要です。これは植物の密度管理で生物界では当たり前のことです。しかし日本の公園ではこれができていません。育成管理や抑制管理の概念は存在しますが、実施に移されているところは少ないように思います。公園の風景をつくるには植え放しではだめです。公園林施業が必要です。庭園のそれとも森林のそれとも違った。要は自然と人間の対応を造園技術として展開できるかどうかなのです。人間と自然の対応を感知する仕組みが造園には必要です。それが窓辺の一鉢であり、その先の御庭であり、身近な公園、自然の山野と対峙した大公園、そして庭や園を超えた里山を含む農村の風景、さらには背後に奥山が控える森林なのではないでしょうか。本誌31号(2018)で触れた美活同源や森林美学までを造園業界は視野に入れるべきです。

自然に合理的に適応するデザイン・ウイズ・ネイチャーの思想

大災害時代を迎え、最も大事なことは自然に合理的に適応することだとの思いを強くしています。人間の力と自然の力の均衡です。これを欠いていると「人工・マンメイド」の風景だけが強く目に飛び込んできます。頻発する災害について自然界と人間界のバランスを回復することを示唆しているとの見方を定めてみるのはどうでしょうか。自然と人間の対応の歴史については、ガトキント説(1952)を紹介するのが適切でしょう。

「自然に恐怖を抱いた」時期を第一段階として、第二段階が「人間が自然に合理的に適応した」段階、次の第三段階は「人間が自然を征服しようとした」段階、そして「人間は自然に責任を持たなければならない」段階にきているとしました。半世紀以上前のことです。ここで注目したいのが第二段階の合理的に適応した段階から学ぶことです。

近年の相次ぐ災害、愛媛県の肱川水害(2018)、長野県の千曲川水害(2019)、熊本県の球磨川水害(2020)などを経験して(写真5)、流域治水による防災を考える動きが進みつつあります。堤防の嵩上げや天井川化してきている河道の掘削など堤防と堤防に挟まれた堤外地の整備とダム



▲ 写真5 令和2年7月球磨川の氾濫による人吉市街地の浸水状況
(出典：国土地理院写真＋熊本県写真)

ムだけに頼るミクロな治水政策では水害防止に限界があります。島国日本は大陸の河川とは違い急流が特徴です。明治政府の誕生から間もなく制定された河川法(1896)、森林法(1897)、砂防法(1897)の治水三法からも如何に河川流域の扱いが国土を治める上で重要であったかがわかります。ではそこに流域治水のような俯瞰的な政策は見られなかったのでしょうか。

明治の中央集権以前は藩政による地方の時代

それ以前の藩政時代には地域に合った工夫の治水技術がありました。山梨の信玄堤はよく引き合いに出されます。信玄堤の他にも霞堤や二線堤があります。熊本だと加藤清正の乗り越し堤など、地域により異なる独自の方法があります。共通しているのは自然に合理的に対応したもので、そうした事例は何処にでもあったとみるのが妥当です。私の郷里である人吉の大水害もそうですが近年の豪雨水害の被災地の特長は盆地型地域であることです。メガロポリス型都市成長で栄えた沿岸地域と異なり盆地型地域はこれまでの経済成長時代には影となった地域です。日本三大急流の富士川と球磨川ではそれぞれ流域治水協議会が発足していますので、その影となっていた地域が治水のみならず新産業の展開を含め新たな取り組みで輝くことを期待し今後の動きに注目したいと思います。

そこで造園との関係をどのように捉えるべきでしょう。京都だと桂離宮、東京だと六義園の敷地計画にみられるように池泉回遊式庭園では、池があって山があります。池を作りたければ、掘った土を山として築くほかない時代の作庭です。山を作りたければ穴を掘って土をかき集めるしかありません。遠くの山を削って大型ダンプカー何百台も持ち込むような自然征服主義ではありません。その逆もまた然りで、特に掘った池の土を場外に捨てに行くなど考えていません。合理的に場内で土量のバランスをとったのです。

造園の術がコロナ禍と災害時代で合理的適応の一つの技術を編み出せるか今一生懸命考えています。造園の術が組み込まれた都市公園が誕生したのは1850年頃のことです。この時、公園は都市の肺臓、酸素を吸入し二酸化炭素を排出する。丁度その頃、仕組みが明らかにされた炭酸同化作用を直喻しないでメタファーとも言う洗練された伝統的修辞技法の隠喩をしたわけです。公園は都市の窓とも言われました。新鮮な空気を取り入れ口をそう修辞することでだれにでも判り共感が得られるように説明したわけです。今回のコロナでも盛んに言われている三密防止の一つです。これからは災害のような目に見える恐怖だけでなく、コロナウイルスのような目に見えない恐怖とも闘っていかなければなりません。ビジブルとイン・ビジブルを共に考える時が造園界にも来ているように思います。

— 農林高校出前講座 —



▲ ワ이어吊りで石組み



▲ 水平器を使用して飛び石の設置

出前講座は、県内の高校生・大学生を対象に、造園業への理解や造園技術の習得を目的に実施し、造園業界への若者の就職を支援することを目指しています。

山梨県立農林高等学校では、造園緑地科1・2年生を対象に、生徒が今まで以上に造園業へ興味を持ち将来の就職先として造園業界を選択してもらうように、これまで5回の出前講座を開催し、令和2年1月14日には卒業生との意見交換会や屋外での作庭を実施しました。

1年生を対象に、同校を卒業し県内の造園会社に就職した先輩4名とのディスカッションを行いました。卒業生は就職したきっかけ、就業状況、業務内容を説明し、植栽や芝張りといった好きな作業、失敗談、仕事から学んだこと、将来の夢などを話し、学生からも活発に質問が出て、とても有意義なディスカッションとなりました。

また、2年生を対象に、当協会の技術委員6名が講師となり、2班に分かれて2m×3mの区画の中で作庭を行い、作業のポイントや重機の使い方などを指導しました。実際に重機で



▲ 1年生講座(卒業生とディスカッション)



防草シートを使った緑化や頑固な雑草に
お悩みの方は1度ご相談下さい！

自然と人間（みんな）が一緒に幸せになる仕事

白崎コーポレーション

〒916-0076

福井県鯖江市石生谷町 11-23

TEL.0778-42-8353 FAX.0778-42-8515



株式会社 **アセラ**

自然と化学の調和を求め、
技術アドバイスで農業をリードする。

〒400-0826 山梨県甲府市西高橋町156番地
TEL 055-235-1968 FAX 055-232-2033

の掘削作業やクレーンでの石吊作業等も行い、普段の授業では経験のできない内容に学生たちは大変興味深く課題に取り組んでいました。石の置き方や樹木の植え付けの向き、飛び石の設置場所など、同じ材料を使ってもこれを扱う技術者によって様々な庭の表現が出来ることに驚き、造園の奥深さを実感していました。最後に自分たちの造り上げた作品を前に記念撮影を行い、学生からは「作庭を実際に経験して庭作りのおもしろさを知った」「造園の知識や技術を習得できてよかった」等の感想がありました。

今後もこうした取り組みを継続することにより、高校生が造園業界のことを知り、さらに興味をもって入職へと続く環境づくりとなるような活動を広げていきたいと考えます。



▲ 作品を前に集合写真 (1)



▲ 作業工程の確認



▲ 作品を前に集合写真 (2)

LANDSCAPE
YAMANASHI

07

青年部の活動報告

◆令和2年度青年部通常総会

6月18日、本年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策のため、部員には事前に総会資料を送付し、書面表決の協力をお願いし、22社から議決書による書面表決の提出をいただいたうえで、役員8名、部員1名の出席のもと開催しました。



▲ やまなしクリーンキャンペーン

◆やまなしクリーンキャンペーン

各種イベントが中止となり青年部の活動もできないなか、9月30日、感染症対策を講じながら「やまなしクリーンキャンペーン」に参加しました。例年は環境美化に取り組む一斉活動として、甲府駅南口駅前広場に花の種とPRチラシを配布するとともに、周辺の清掃活動を行っていましたが、本年度は駅前周辺及び舞鶴城公園内の清掃を2グループに分かれて実施しました。



▲ 舞鶴城公園清掃

STIHL®

緑化園芸機材・林業／農業機械・鳥獣害対策機器・刃物
森林アウトドア用品・薪ストーブ・薪ボイラー・除雪機
保冷庫・木材加工機材・保安用品（スパイク付ブーツ等）
高圧洗浄機・法定器具・キノコ菌類・食品乾燥機

地球への愛、人への優しさ。
当社は優れた品質で社会に貢献します。

山梨スチール株式会社

〒400-0047 山梨県甲府市徳行4丁目13-5 <http://www.yamanashi-stihl.co.jp>
TEL: 055-226-3656 info@yamanashi-stihl.co.jp

総合造園緑化資材、石材砂利、越後の刃物、卸販売

有限会社造園資材センター

〒400-0054 甲府市西下条町1346-1
TEL: 055-220-2553 FAX: 055-220-2554

山梨県造園建設業協同組合では、現在33社が加入し、造園に関する様々な業務を行っております。現在は、山梨県から、指定管理者として武田の杜保健休養林の管理運営、緑の普及啓発事業として「緑の相談所」を受託し実施しています。

武田の杜保健休養林事業

平成26年度より、武田の杜保健休養林の管理運営を行っており、四季を通じて自然に親しむ様々な事業を展開し、県内外から年間約10万人の皆様にご利用いただいております。

本年度、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、キャンプ場の閉鎖や主催事業の多くが中止となるなか、独自に新型コロナウイルス対策のガイドラインを定め、感染防止に最大限の注意を払い事業を実施いたしました。

当組合としては、今後とも新型コロナウイルス感染防止に努めながら、更なる実施事業の充実、適正な管理運営を行い、多くの皆様に愛され安心してご利用いただける施設にしていきたいと思います。



◆武田の杜森林セラピースペシャルツアー

武田の杜では、平成25年に森林セラピー基地に認定された良好な自然環境のもと、武田の杜森林セラピーガイドの指導による森林セラピーを実施しています。

本年度は通常の森林セラピーに加え、武田の杜を活用し誘客促進を目的とした県の補助金(森林公園等を活用した誘客促進事業費補助金)を受け、武田の杜森林セラピースペシャルツアーを10回、約180人の参加者のもと実施しました。

午前中は武田の杜で森林セラピーを体験し、昼食後にジャンボタクシーで昇仙峡に移動、マイスターガイドの案内による昇仙峡観光を行うもので、紅葉シーズンでの実施や、通常の森林セラピーより参加費を低価格に設定したこともあり、開催日の大半は予約が満員御礼となるなど大好評のもと終了しました。

参加者は森林セラピーで癒され、本年度、日本遺産に認定された昇仙峡の美しい渓谷を満喫していました。

◆野生鳥獣写真コンクール(鳥獣センター)

野生鳥獣の保護思想の普及啓発を図るために開催され、平成10年度から始まり、本年度で23回目を迎えました。

令和元年度は、県内はもとより全国各地から95名、218点と多くの応募があり、その中から、最優秀知事賞を始め各賞が選出されました。また、応募作品を展示する「野生鳥獣写真コンクール展示会」を5月から約2か月間開催し、多くの来場者がありました。

本年度も、令和3年2月末日締め切りの期限で、現在、募集中です。



▲写真：最優秀知事賞「マダラチュウヒが来た」 山崎 勝明



竹材・木材・石材販売
笠井造園資材 有限会社

〒409-3866
山梨県中巨摩郡昭和町西条2461-5
TEL:055-275-2842 FAX:055-275-5554

一般のお客様にも建機レンタル及び販売を致しております!

<http://www.kouyo.jp/>

街のどこかに KKL

AKT/O グループ

甲陽建機リース株式会社

本社 ● 〒400-0815 山梨県甲府市国玉町 797 TEL055-237-7801

リース事業部 ● 〒400-0815 山梨県甲府市国玉町 797 TEL055-237-7821

荻崎ハウス工業 ● 〒407-0033 山梨県荻崎市竜岡町下条南割 591 TEL0551-21-2302

営業所 ● 甲府・塩山・荻崎・身延・吉田・大月・竜王・甲西センター

緑の相談所

旧山梨県緑化センターで行われてきた緑化相談や緑に関する研修会等のソフト事業につきまして、平成26年度から新たに当組合が県から「緑の普及啓発事業」の業務を受託し、「緑の相談所」という組織を作り、県内各地での研修会開催など、県民を対象に緑の普及啓発事業を行っています。

本年度、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を講じる中での事業展開となりました。

◆緑の教室

年間34回県内各地の会場において、「庭木の手入れ」「樹木の病気と対策」「バラの剪定」「外来植物の現状と対策」「芝生の年間管理」等、緑に関する知識や技術の普及を目的とした講座を開催しています。



◆巨樹・名木学習講座

小型バスで県内の巨樹・名木を巡り、現地においてその価値、保全、活用等について樹木医から学ぶ講座を年間8回開催しています。毎回30分程で定員に達してしまう人気の講座です。



◆緑サポーター養成研修

緑に関心の高い県民を対象に、地域の緑化の推進及び樹木の診断を行う者を養成するための講座を開催しています。7日間の講座中、6日以上に参加で県から修了証書が授与され、修了者は(一財)日本緑化センターへ「緑サポーター」として登録することができます。本年も3名が登録しました。



◆特別講座

ランドスケープデザイナーのポール・スミザー氏の講演会を11月12日、敷島総合文化会館で開催しました。「街こそ豊かな環境を!」と題し、生物多様性に富んだ、持続可能なナチュラルガーデンづくりについて講演があり、県内外から140名の参加がありました。



◆緑化相談事業他

緑の相談所樹木医、及び組合所属樹木医等8名が、病虫害・剪定・緑化等、緑に関する相談に対応しています。また、小学校等教育機関や各種団体からの要請により、緑に関する研修会を開催しています。

武田流門松展示



▲ 山梨県議会議事堂前

令和2年、山梨県庁本館の正面玄関前並びに山梨県議会議事堂前に展示し、新年のお祝いと造園の伝統技術の紹介を行い、多くの方々からご好評をいただきました。

表彰

山梨県中小企業団体中央会

令和2年6月4日、アピオ甲府にて開催された山梨県中小企業団体中央会第65回通常総会において、令和2年度組織功労者、青年部功労者、優良専従職員の表彰式が行われました。山梨県中小企業団体中央会会長より、組織功労者として当組合理事・富岡信也氏、青年部功労者として辻緑化土木(株)嶋津英伸氏、優良専従職員として当組合事務局・土屋まさみ氏が表彰されました。

感謝状

令和2年5月16日、公益財団法人山梨県緑化推進機構会長より「緑の募金」の趣旨に賛同し、森林の整備や緑化の推進に貢献された旨の感謝状が贈呈されました。



株式会社
山梨環境サービス

公益社団法人 日本下水道管路管理業協会会員

〒405-0069 山梨県笛吹市一宮町東新居 1065-1
TEL/0553-47-3305 FAX/0553-47-3306
E-mail yamakan@yks-eco.co.jp
URL <http://yks-eco.co.jp/>



日立建機日本特約店 (販売・サービス・製造)
国際貢献事業



山梨県南アルプス市上今諏訪564番地の1
TEL 055-282-3211 FAX 055-282-3269
<http://www.nikkenmfg.com/>

会 社 名	代 表 者 名	住 所	電話番号 / FAX	E - mail / URL
(株) アセラ技建	久保田茂樹	甲府市蓬沢町 1171	055-233-4617 055-233-4633	giken@acera-jp.com
(株) 石和植木	齊藤 正隆	笛吹市石和町川中島 378	055-263-2070 055-262-4889	isawa@mbd.nifty.com
(株) 石原グリーン建設	石原 政人	甲府市高室町 269	055-241-2001 055-241-0822	office@green21.co.jp http://www.green21.co.jp
(株) 雲松園	大塚 広夫	北杜市小淵沢町 3630	0551-36-2432 0551-36-4128	info@unshouen.co.jp http://www.unshouen.co.jp
(有) 萩野造園	萩野 あさ子	甲府市伊勢四丁目 1-12	055-235-4045 055-231-2020	ogino@peach.ocn.ne.jp http://www.oginozouen.com
(株) 帯金造園	帯金 岩夫	甲府市池田二丁目 11-12	055-251-4128 055-251-4194	office@obikane.co.jp https://www.obikane.co.jp
(株) 河口湖庭園	梶原 陽一	南都留郡富士河口湖町船津 4940-1	0555-72-0635 0555-72-5435	yozan@kawaguchiko.ne.jp
(有) 窪田造園	窪田 司	甲斐市中下条 1673	055-277-2111 055-277-8881	kubotazouen@za.wakwak.com
甲南緑化 (株)	岩田 めぐみ	甲府市高室町 721	055-241-6136 055-241-6135	kounan@maple.ocn.ne.jp
河野造園土木 (株)	河野 嘉孝	甲府市下飯田二丁目 5-27	055-222-4396 055-222-0555	info@kzd.co.jp http://kzd.co.jp
(株) 三枝造園	三枝 正雄	富士吉田市松山 1267-6	0555-22-1174 0555-22-2219	yamaus-zouen@tbz.t-com.ne.jp
(有) 坂本造園	坂本 篤彦	韮崎市若宮二丁目 9-39	0551-22-0301 0551-22-0322	sakamotozouen@bg.wakwak.com https://sakamoto-zouen.com
三協造園 (株)	八木 幸彦	西八代郡市川三郷町印沢 18-3	055-272-6000 055-272-7777	sankyouzouen@beetle.ocn.ne.jp
(有) サンリツ造園土木	富岡 信也	甲府市善光寺町 3135	055-268-3110 055-268-3118	sanritsu-2006@topaz.plala.or.jp
(有) 敷島緑化土木	石水 秀樹	甲斐市島上条 1664	055-277-2530 055-277-8311	sryokkas@cronos.ocn.ne.jp http://www.shikishimaryokka.jp/
(株) 芝保	藤原 辰男	甲府市貢川本町 18-20	055-237-7000 055-224-5555	shib0377@peach.ocn.ne.jp https://shibaho.jp
(有) 清水造園	清水 文一	甲府市里吉一丁目 7-21	055-233-9748 055-233-9758	shimizu.z@sea.plala.or.jp
(有) 志村樹苗園	志村 好啓	甲府市緑が丘一丁目 4-4	055-253-6983 055-253-6985	shimura.sdv4@rouge.plala.or.jp
(有) 須田造園	須田 良英	笛吹市八代町米倉 729	055-265-2452 055-265-3691	suda@arion.ocn.ne.jp http://www.land-s.co.jp
中央造園土木 (株)	今村 尚人	甲府市徳行一丁目 9-27	055-226-4525 055-226-4573	info@chuouzouen.co.jp http://chuouzouen.co.jp
辻緑化土木 (株)	辻 宏幸	甲府市朝気三丁目 3-16	055-233-9545 055-233-9542	info@tsuji28.net http://www.tsuji28.net
(株) 津々美造園	堤 明伸	甲府市愛宕町 146	055-253-2188 055-253-7835	tsutsumi@mx10.ttcn.ne.jp http://www.tsu2mi.com
(有) 東香園	名取 満	南アルプス市十日市場 1828-1	055-282-0970 055-282-0952	tou-kou@eps4.comlink.ne.jp https://tou-kou.jimdo.com/
(株) 仲村造園	仲村 清輝	北杜市明野町小笠原 3838	0551-25-2348 0551-25-2439	naka-lal@aurora.ocn.ne.jp
野尻造園建設 (有)	野尻 広光	韮崎市穂坂町宮久保 5122-2	0551-22-0615 0551-22-2531	h-nojiri@amber.plala.or.jp
富士観光開発 (株)	志村 和也	南都留郡鳴沢村字富士山 8545-2	0555-86-3311 0555-86-2440	kensetsu@fujikanko.co.jp http://www.fuji-net.co.jp/
富士急建設 (株)	飯島 慶一	富士吉田市新西原五丁目 2-1	0555-22-7151 0555-22-7153	fken@fujiky-kensetsu.co.jp http://www.fujiky-kensetsu.co.jp
(株) 富士グリーンテック	森 明彦	甲府市富竹三丁目 1-3	055-236-1600 055-224-5520	honsya-soumu@fujigreentech.jp http://www.fujigreentech.jp/
(有) 美園造園土木	武藤 洋一	甲斐市玉川 1447-4	055-276-9241 055-279-8671	misono610@s2.dion.ne.jp http://www.yamanashi-machitsukuri.jp/mizonozouen/
(株) 明桃園	角野 勝	南アルプス市桃園 968	055-282-4128 055-282-4190	meitoen@khaki.plala.or.jp
山梨ガーデン (株)	依田 忠	南巨摩郡富士川町最勝寺 1514	0556-22-4181 0556-22-2359	y.garden@cronos.ocn.ne.jp http://yamanashigarden.co.jp
(有) 山宮造園	山宮 一哲	甲府市大里町 3608	055-241-2256 055-241-2078	yamamiya@kvj.biglobe.ne.jp
(有) 吉井造園	吉井 公人	甲斐市西八幡 4044-6	055-276-0470 055-230-6322	yoshii-zouen@ag.wakwak.com